

新入生の皆さんへ ~図書館へ行くのを日課にしませんか？

新入生の方々は、もう学生生活に慣れて来た頃だと思います。新しいキャンパス、新しい先生や友達等々、多くの変化があったことでしょう。それらの変化に順応し、そろそろ自分のペースが掴めて来たのではないのでしょうか。

さて、今回は図書館とパーティーの準備という、一見何の関係も無いようなお話をしたいと思います。皆さんは自宅でパーティーを開くことになったら、その時に出す料理をどうしますか？ 宅配ピザ等を利用するのではなくて、自分で料理をするとなった場合には、どのような手順で食材を調達しますか？

この方法には二つあると思います。一つは、とにかくお店に出掛けてみて、良い物を見つけてその場でメニューを考えるタイプ。もう一つは自宅の冷蔵庫を覗いてみて、メニューを考えてから食材を調達するために出掛けるタイプです。さて、この二つのタイプと図書館と何の関係があるのでしょうか？

まずは前者の「とにかくお店に出掛けてみる」タイプについてです。これを図書館の利用に当てはめてみると、「とにかく図書館へ行ってみよう。」という事になり、図書館に入ってから何をするかを、その時の気分で考えるのです。新着図書コーナーに届いた本を見ってみるもよし、雑誌コーナーでお気に入りのタイトルの最新号が届いていないかをチェックするもよし、何でも構わないのです。思いもよらなかった本に出会うかも知れません。授業と授業の間の時間や、ほんの短い時間でも構わないのです。学校の帰りに新聞を読むのを日課にしてもいいですね。息抜きのためにぶらりと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。通い続けると、今まで気付かなかった新たな発見があるかも知れませんよ。

後者の「予めメニューを考えておく」タイプは、図書館で宿題、調べ物や読書をするなど、目的が決まっている場合です。この場合には書庫に入るケースがあるのですが、その際にもある程度目的を持って下さい。もし「ぶらり」と書庫に入ったとしても、その膨大な量に圧倒されてしまうだけです。読みたい本がコンピュータ検索でヒットしたのなら、迷わずその本が置いてある場所へ行けば良いのですが、例えば英語の文法について調べたいのであれば、予めその分類番号を調べておく必要があります。初めて利用する場合には判らないでしょうから、カウンターで聞いて下さい。この分類番号ですが、和書は日本十進分類法に従っています。これに慣れるには、閲覧室の本の並び方を見て下さい。閲覧室は書庫の縮図で、基本的に書庫と同じ並び方となっています。ですから閲覧室で自分が読みたい本の番号が大体判るようになれば、書庫に入っても迷うことはありません。閲覧室と書庫の書架を思い通りに使いこなして、「自分の本棚」にしてみませんか？

もうすぐ待望の夏休み。夏休みの期間中も、お盆の期間を除けば図書館は開館しています。通常の開館時間とは異なりますので、開館予定表でチェックしてからお越し下さい。涼しくて快適な環境でお待ちしています。

ふじい たつや(司書・係長・アジア関係図書館)